

市政トピックス



◀ 苅田取締役社長に要望書を手
渡す左から速水市長、近藤市長、
長岡市長。



中国電力取締役社長に要望 立地自治体同様の安全協定を

江市)と同様の原子力安全協定の締結について要望書を提出しました。

原子力安全協定とは、一般的に立地自治体の県と市町村、電力会社の3者で原子力発電所について結ばれるもので、緊急時の通報連絡、運転情報の定期的な報告、情報公開の義務付け、自治体の立ち入り調査権・措置要求権、施設の新増設など事前了解・協議の項目などを盛り込み、住民の安全確保や周辺環境の保全のために締結されます。

島根原子力発電所から30キロ圏内に位置する、安来・出雲・雲南の三市の市長が3月28日、広島市の中国電力株式会社本社を訪れ、立地自治体(島根県・松

安来市副市長に

森脇光成氏が就任



森脇光成副市長

新田典利副市長が退任し、4月1日から森脇副市長が就任しました。

任期：4月1日～平成32年3月31日

● 経歴：昭和36年生まれ、55歳、岡山大学法文学部卒業、島根県採用、隠岐保健所調整監、自然環境課調整監、企業局経営課長、企業局総務課長などを歴任。

て3回目となります。

当日は、近藤市長、長岡秀人出雲市長、速水雄一雲南市長が、そろって中国電力株式会社本社で苅田知英取締役社長と面会。三市の代表を務める近藤市長が、「3市とも立地自治体同様のリスクを負っている。住民の生命・財産を守るため、安全対策について周辺自治体の意見が反映さ



4月から9施設が移行 認定子ども園が10施設に

4月1日から市内9つの保育所が認定子ども園に移行し、新たなスタートを切りました。

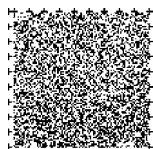
移行した施設は飯梨、大塚、広瀬、布部、比田、安田、母里、井尻、赤屋の9施設。既に移行している荒島を加えると市内の認定子ども園の数は10施設とな

れることが必須」と述べ、要望書を手渡しました。苅田取締役社長は「3市の市長が広島まで出向いて要請されたことをしっかりと受け止めたい。安全協定のあり方にはさまざま議論がなされている。十分検討し、改めて回答したい」と述べ、その後、意見交換を行いました。

りました。安来市では平成31年度までに14箇所の認定子ども園を誕生させる予定です。

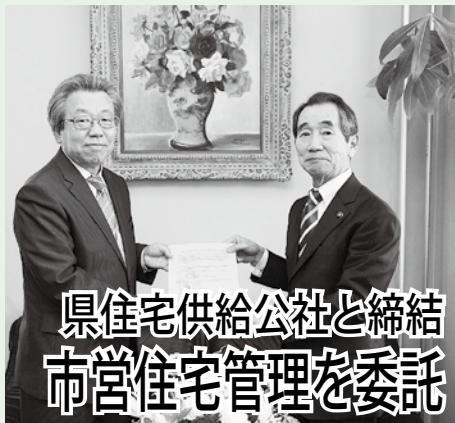
認定子ども園は、幼稚園と保育所の機能を併せもった施設で、教育と保育を一体的に提供します。また、親の就労状況に左右されずに子どもが同一施設にいられることや、子どもが一緒にいることで適切な規模の子ども集団を保つことができ、子どもたちにとって良好な環境が整います。

認定子ども園布部では4月4日に除幕式が行われ、地域の人が見守る中、子どもたちが除幕して看板をお披露目しました。



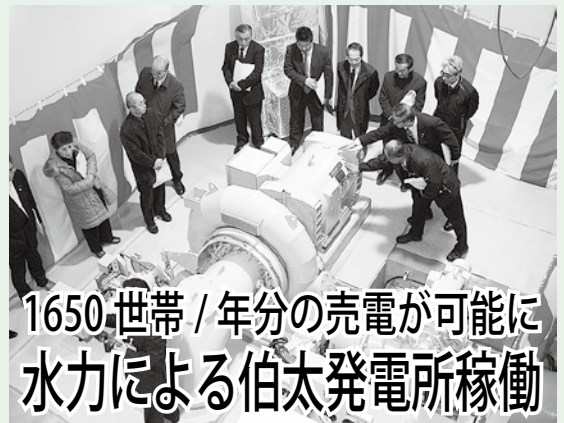


調印を交わした近藤市長と松本理事長（左）



県住宅供給公社と締結 市営住宅管理を委託

平成23年の集中豪雨により
運転を停止していた伯太発電
所（小水力発電）が、改修工事
を終え四年ぶりに再稼働しまし



1650世帯/年分の売電が可能に 水力による伯太発電所稼働

た。同発電所は昭和34年に運転
開始。伯太川水系の豊富な水を
利用して発電を行っていました。

新発電所の総事業費は
313百万円。年間見込発電
量は70万7400kwh
で、電力会社への売電見込額は
2千6百万円です。これは一般
家庭の1650世帯分に相当し
ます。

今回の設備には遠方監視シス
テムを導入。2台のカメラによ
る最新の状況の確認や発電量の
データをモバイル端末等で常に
確認することができま

4月1日から市営住宅の管理
業務を島根県住宅供給公社に委
託しました。

同公社は、県の住宅行政の総
合的な実施機関として、県民の
住生活の向上を目指し多彩な事
業を展開しています。30年にわ
たる県営住宅の管理など住宅に
ついて実績のある団体です。市
は公社の資源やノウハウを活用
することで、市民サービスを向
上させ、効率的・効果的に業務



開所した南児童クラ
ブ（右）と母里児童
クラブ（下）。

母里小・南小で完成 放課後児童クラブ



母里・南小学校区の2
つの放課後児童クラブが
完成し、3月下旬・4月
初旬にそれぞれのクラブ
で開所式を行いました。

母里は小学校に隣接した母里
交流センターの敷地内、大塚は
南小学校の駐車場に建設され、
移動によるリスクを縮小
し、校庭や体育館などが
使用しやすくなりました。
子どもたちを預かる部
屋はいずれも一部屋で、
一目で視認できるように
設計されており、安心安
全な設備が整いました。

を執行できるとして今回の委託
となりました。

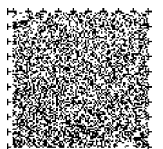
委託により、ライフラインや
施設、設備における各種トラブ
ルや苦情に対し、休日も含めた
365日・24時間体制の確立と、
住宅相談員の配置による、きめ
細やかな住民サービスの提供が
可能となりました。また、県営住
宅と市営住宅の空き部屋情報を
一元的に管理・提供ができます。

4月から市役所広瀬庁舎一階

に安来事務所を構え、入居登録、
退去の手續、修繕、空室等の情
報、各種届出などの業務を開始
しています。

4月1日に安来庁舎で調印式
が行われ、近藤市長と松本功理
事長が委託管理締結を交わしま
した。

松本理事長は「公社に任せて
よかったと市民に喜んでもらえ
るよう、しっかりと務めていき
たい」と力強く話していました。



安来市長選挙・安来市議会議員補欠選挙

選挙期日…10月16日(日) 告示日…10月9日(日)

選挙人員…安来市長選挙 1人

安来市議会議員補欠選挙 1人 (3月22日現在)

※立候補予定者説明会を9月に行います。

■問い合わせ
安来市選挙管理委員会 Tel. 23-3135

3月31日をもって閉園した広瀬幼稚園で4月3日、卒園者などが集まり、清掃活動を行いました。当日は3月まで園児だった子どもや、小学生から70代までの卒園者を中心に約200人が参加。落ち葉拾い、窓ふき、床掃除などのおのおのが感謝の思いを込めて園内を丹念に清掃しました。清掃後は、全員で遊戯室に集まり園歌を斉唱。歌い終わると、参加者から大きな拍手が沸き起こりました。散会後も多くの人が園にとどまり、思い出話に花を咲かせたり、園内で遊ん



卒園者らが清掃活動
閉園の広瀬幼稚園に感謝



▲花びらの形の紙に感謝メッセージを添えました。

だりと別れを惜しんでいました。広瀬幼稚園の卒園者で現在は高校生の横地かえさんは「思い出深い園。小・中学校の通学の際にも園の前を通っていたので「さみしい」と名残惜しそうに話していました。広瀬幼稚園は、昭和15年6月に広瀬町保育園として設置した後、昭和18年4月に広瀬幼稚園として開園し、広瀬地域の幼児教育の拠点施設として役割を担ってきました。4月に認定こども園広瀬が開園するにあたり、3月をもって72年間の歴史の幕を下ろしました。4月から施設の一部は放課後児童クラブが使用する予定です。

